

楊長明三部之記

方丈記



鴨長明方丈記抄

鴨里之抄



五段目

昔城小出雲海馬小女流衣鴨河一
流來鴨河加吾女九波家挾之擔
牙已る女娘產男父母同く妻女云
無父母以爲匿る不云児三歳時父母
儀以爲世豈有無父之児哉思け里

人子^{ハナコ}恒具^{トコニ}洒^シ然^ニ富^ニ里^ニ夫^ハ今^ニ児^ハ招^ハ招^ハ
試^シ告^グ云^ク从^ツ計^ハ招^ハ重^ニ母^ハ父^ハ其^ハ招^ハ招^ハ之^ハ人^ニ
乃^ハ児^ハ父^ハ也^ニ於^ニ是^ニ大^ニ云^ク解^ハ人^ハ教^ハ爵^ハ授^ハ令^ニ
児^ハ送^ハ招^ハ児^ハ九^ニ招^ハ重^ニ獨^ニ人^ハ出^ハ雲^ハ重^ニ重^ニ重^ニ
上^ハ鴨^ハ家^ハ不^ニ父^ハ母^ハ及^ニ流^ハ人^ハ怪^ハ受^ハ金^ハ曰^ク計^ハ
矢^ハ鴨^ハ招^ハ恒^ニ好^ニ計^ハ児^ハ為^ハ夜^ハ辰^ハ氏^ハ於^ニ是^ニ児^ハ
化^ハ為^ハ雷^ハ上^ハ天^ハ母^ハ又^ハ同^ニ時^ニ也^ニ云^ク

長明 吾妻鑑第十九云

建曆元年^{辛未}十月十二日^{辛酉}社氏人^ノ
菊^ハ太^ハ史^ハ長^ハ明^ハ入^ニ道^ニ依^ハ雅^ハ經^ハ朝^ハ臣^ハ之^ハ樂^ハ計^ハ
問^ハ下^ハ向^ハ奉^ハ湯^ハ也^ニ軍^ハ女^ハ家^ハ朝^ハ及^ニ夜^ニ云^ク而^ハ
今日^ハ當^ハ幕^ハ下^ハ將^ハ軍^ハ卿^ハ上^ハ矣^ニ彼^ハ法^ハ花^ハ雲^ハ
念^ハ誦^ハ讀^ハ經^ハ之^ハる^ハ懷^ハ舊^ハ之^ハ候^ハ也^ニ催^ハ往^ハ一^ハ也^ニ
於^ニ雲^ハ極^ハ

あのをまのひさう林の雲は
おれよひさうふん
あれ集とあらふう一は長明は集り一



路音^{ミチノネ} 珍^{メカシ} 人不知^{ヒトシラナク}
 然^{シカバ} 然^{シカバ} 以^モ 以^モ 以^モ 以^モ
 乃^ス 乃^ス 乃^ス 乃^ス 乃^ス 乃^ス
 左傳^{サヘン} 是何祥也^{ニハナニシキサマナリ}

僖公十六年

是年九月三日、
 三月十日、三月、
 五月、里より、
 学、
 年十一月、
 京より、
 高、
 三、
 と、

殿へはるかにてはるかに
 秋の風もさびしきなり
 ともよひとせりなほけ
 ありはたさうあひく
 して人かまのたのしみ
 なることとてふ車は
 のり衣冠をきくべし
 たり秋の條里に
 まりてはるかに
 あれは世の礼を
 とるくはとてはるかに



錦縁文綺不衣新臨
珎異不現玩好之樂
寶高佚之樂不與官
垣屋室不室堊桐
極不訓茅茨偏庭不
翦

花のうらみさうく
みはやくみさうく
みはやくみさうく
養和 安德天皇手号也
京のあはれふはくも
みはやくみさうく
米穀枝木蕭々
皆回今よりうら
のひ

あはれみさうく
あはれみさうく
あはれみさうく
祭器雖寒不衣祭
服

夢身ふさう
日師聲之始
乱洋洋乎盈耳哉
あやと役痛れ
あまの魚せん
過命亦滅指水魚
是何樂謹勿解急
あはれみさうく
齊有食者常乞於
城市乞兒曰天下辱

ねちんぬさうく
わさうく
どはなうと書て
ふさう
んさう
はの京の市一糸
か糸拾うる糸
ふさう
をう
ありくは糸
はさう

らはいま
糸酒流
うた
さめ
のり
おさう
山さ
漆
ア
あな
とほ

又あれのくろ 我ちあ
やれもちたるもの
いふうめときぞ
のふわきとて
今世にあらざる
えぬされなきあつ
るをさすおとしは
こころまればんそ
くらぐし人のあ
ふもたのねど
みとよみなるふ

仁和寺隆曉法師未考

阿字ハ講田中下多所マ有テ

一カ生死シ樹涅槃ニ示ス

くさぐさのあ
ふふのあふふ
ふふのあふふ

仁和寺隆曉法師未考
阿字ハ識田中下阿字
一乃生死ハ樹涅槃亦斷

又曰師教不生新羅
國靈妙寺僧不可思
議釋曰秘密中秘釋
者師字自說本不生

色味 色は如くそて好

元曆後鳥羽院年号

江戸の川とて

莊子駢義篇云夫川

竭而谷虛丘夷而淵

實と云ふは

小政と作りて今世

小々々々々々々々々々々々

今

あふれりてふ

正當今時願一して金ぐ成

[illegible]

つゝと香木松のくはる衣い衣

乃やづゝをいふにるゐる女

ふれはるゝおひげをなげさうり

ゆきまたはな
おのれをうけ

あるべしはねばやうのらん

[illegible]

心腹をすりやうで煮てとり。き

中て^{うち}共^{ども}そへ^へあ^あて^て。さ^さら^ら

なほさへよひにふゆさへい

小石山房

ふふと笑ひてらるけり

あゝと嘆いてあそびつうーうぐ傾かたよ

ふたつめらねくわさるおひ

うらなれど一の自と一寸なり

うむれり。又母よりて、

一丁

萬曆二十九年

東山先生集

三ノ宮

けりて是をいふと却て理なきと

ぞんばりーづおびあーくすて

とらぶ。みやくに。きく。あ。り。

明史稿

おゝあひとやたつてあづか
 りてふりてふりてふりてふり
 らずともはれんまゐるを
 送る所のうのたつてつじ
 る二重車ばかりとむらさ
 き用をいびきよりせよ
 然どくして南は候の日ぐ
 くり行ふものにやとて
 閑休棚を作りおろすのは
 ては海流の盡像と安んじ
 とあひとけりて肩を光と

[illegible]

傳

此は、
 此は、
 此は、

勝地のみをたふす

主^ス大^ニ和^ニ山^ノ屬^ス樂^ニ山^ノ人^ノ
朗詠^スみ^ニや^ニり^ニ自^ラ
飛^ハ揚^グ

にけりくちやうんはたのにはけり
きとくとうねりてそのふたつふ
あとのうち、南波系か北波とぬ
こも一柱のふくとくふんぐへ
ゆはれはのいそとをりて、
我のあはれであらざりまゝ奥
のさぶらづけたのいそむくの樂と
たてあひのまに舞臺の西とあり
よ。またこれよりあられ入の事と
燃えんとするあはれひきとりたる
ひかりけりとあらうとやあるまじ



我々ども一から一は
 川のありとをさへ
 あれと樂と
 陶洲明願去
 來辭云歸去來今請
 息交以絶跡

人の心を
 外に求めぬ
 心の安んずる
 隠居の体

命ハ云連ふりて
論語死生有命富
貴在キ天
それハ
心外無事
東山

ふとそとへていふのほどに、
 正めと云ふべきことあり、
 月と云ふとせんか、
 りの、
 と、
 みわたり、
 バ、
 ふ、
 の、
 ら、
 へ、

礼智信而意高自
 負不仁義不智信
 解行仁義不智信
 不台敬尔名入相
 好度已思入相
 於人名衆生相對
 境取捨分別各壽
 者相是謂凡夫四
 相修行是謂有相
 相心有能所輕慢
 樂生名我相持
 戒輕破戒者名持
 相厭三途苦願生
 諸天是衆生福也
 心愛長年勤修是
 業諸執不怠是壽

小者せくあはれどいふにや
 こやふあぐつくれども
 せび一箇のぬひなう終れ
 のよるふまうきほのうへ
 のまきふまきりそれ二箇の
 人一なりふまきりそれ二
 もうのまきりそれ二箇の
 とはれ一箇のぬひなう終れ
 ひとあつるふまきりそれ二
 食とあつるふまきりそれ二
 けてふまきりそれ二箇の



